1997年第15回男子世界選手権
日本招致熊本開催決定！

「世界」が「日本」にやってくる！
夢にまで見た世界選手権が、初めてヨーロッパを離れ、アジアへ、日本へ、そして熊本へやってきます！

全ハンドボーラーの力を結集し、世界選手権を成功させましょう。

さる9月9日、オランダで行われたIHF総会で、1997年男子世界選手権の日本・熊本での開催が決定いたしました。

招致活動を通じて皆様から賜った温かいご支援に対し、心から厚くお礼申し上げます。

今後は皆様の熱い期待に応える立派な大会となるよう、開催準備に全力を尽くして参りますので、従前にも増したご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

日本ハンドボール協会会長　斎藤英四郎
熊本県知事　福島　譲二
熊本市長　田尻　靖幹

【大会要項】

1　開催期間　1997年5月中旬～下旬　14日間
2　開催場所　熊本県熊本市　他
　メイン会場となる熊本県総合運動公園内　屋内運動広場（仮称）を中心に県内4会場程度
3　参加国数　24カ国（開催国日本を含む）
4　試合数　88試合
5　参加者数　選手、役員、IHF関係者、報道関係者ほか　約1000人



97第15回世界男子ハンドボール選手権大会日本開催決定

日本招致は“瓢箪から駒”

欧州以外で初の選手権

日本協会副会長　**渡邊　佳英**（招致委員会常任委員長）

初のテレビカメラ入り

「日本　44票!!」

この瞬間、1997年の第15回世界男子ハンドボール選手権大会の日本（熊本）開催が決まった。9月9日、オランダのノールトウェイクで開かれた国際ハンドボール連盟（IHF）の総会で…。

私は、この「日本　44票」を聞き、ほっとした。と同時に、体中の力がいっぺんに抜けた感じだった。次の瞬間、今度は大きな喜びとなり、私は立ち上がってすぐ金宗河理事（韓国）ら各国の役員と握手をした。

亡父和美（元日本協会副会長）が三十年前に播いた種が大きく育って花を咲かせ、大きな実をつけたのが1994年9月9日。日本協会としては銘記すべき日である。

共同通信社の小山記者は本社へ第一報を入れるため急ぎ足でプレスルームへ、梅田カメラマンがカメラのシャッターを切り、ロイター・テレビ（英国）のカメラマンがカメラを回した。総会会場に日本のマスコミやテレビカメラが入ったのは、これが初めて。日本ハンドボール界にとって稀有な出来事だった。

招致活動の話が出てから二年。熊本県、熊本市の関係者がひとつになって活動した賜であり、私は終生忘れることはできない。欧州以外での初の世界選手権大会である。

きっかけは夕食会

「熊本に招致しよう」としたきっかけは、偶然の出会いから…。平成四年夏のインタハイ（宮崎県）で日本青年会議所（JC）のOB仲間の安田公寛氏（日本新党熊本支部代表）と夕食を共にしたとき、



安田氏は「2002年のサッカー・ワールドカップの熊本招致を断念した」と力無く話し始めた。安田氏の落胆ぶりを見た私は「ハンドボールの世界選手権大会なら十数億円で招致できるぞ」と冗談まじりで慰めたら、彼は身を乗り出してきた。そして“瓢箪から駒”が出たのだ。

ハンドボール王国の熊本県に、この話がいち早く伝わった。翌五年六月に熊本県、同ハンドボール協会が「熊本開催」の立候補を表明。日本ハンドボール協会評議員会で了承された。そして「あれよ、あれよ」と言う間に招致委員会が設立され、招致活動へ走り出した。

好印象のローザンヌ行き

私は招致委員会の常任委員長、日本ハンドボール協会の副会長としてIHF、アジア・ハンドボール連盟（AHF）、欧州ハンドボール連盟（EHF）と緊密な連絡をとった。対立候補のエジプトに勝たなければならない。IHFのランス会長（オーストリア）はじめAHF、韓国ハンドボール連盟、クウェート・ハンドボール連盟の首脳部と会い、情報収集と状況分析に入った。ことし五月にローザンヌで開かれたIHF理事会には熊本県、熊本市、招致委員会のメンバーがオブザーバーとしてローザンヌ入り。これがIHFの印象を良くした。

これより先、ことし二月二十七日にはIHF規則審判委員会のエイビン・ボルスター副委員長、パク・チョンジョ委員（韓国）の二人が熊本を訪れて関係者と会い、招致について懇談し、好評を得た。

当初の確率は95%

私は情報を分析した結果「日本の確率は95%」と判断した。残り5%（エジプト）を、いかに切り崩すか。この5%に全力を注ぎ、IHFやAHFの動きを注視していた。IHF総会の前夜、関係者がエジプトを辞退させる情報を入手した。それでも一抹の不安があったが、ランスIHF会長やIHF、AHF関係者の動きから、「100%日本開催」と自信を得、ほっとしたのは事実である。

大会開催に当たり、私は日本国内のファンはもとより、日本の人たちにハンドボールをよりよく知ってもらう絶好の機会としたい。そして97年に向け、日本チームを強化することが急務と思っている。

CONTENTS

<表紙>熊本開催が決まり祝福を受ける渡邊副会長

第15回男子ハンドボール世界選手権大会

熊本開催が決定して

熊本県ハンドボール協会会長　與縄　義昭

1994年9月9日(金)は熊本県ハンドボール協会にとって記憶に残る日となりました。1997年第15回男子ハンドボール世界選手権大会を「熊本」において開催したい、との動きが始まったのは92年の秋でしたので、丁度2年後にその結果が出たことになります。

世界選手権をホストするには様々な事柄をクリアしなければなりませんが、先ず資金面において熊本県、熊本市のご協力を得ることができるかどうかが最大の課題でありました。兎に角何をどのように進めていくのか、マニュアルのない事ばかりでしたが、熊本県内の取りまとめ、進め方等々については、八木熊本県体育協会長自ら先頭に立ち、動いて頂き、そのお力は大変大きなものでありました。日本協会においては、この話の発端を作って頂いた渡邊副会長、事務方をリードして頂いた中澤専務理事には大変お世話になりました。そのような中、熊本県協会として誰も世界選手権なるものを実際に見ていませんでしたので、見てみなければお話にならない、という事で昨年3月、スウェーデン・ストックホルムで催された第13回男子世界選手権大会に大会視察として協会より森理事長を派遣致しました。これには日本協会の井常務理事（オムロン総監督）も同行頂きましたが、井氏は熊本県協会の理事でもありますので、その後の国際・日本・熊本の関係の中でも重要な役割を果たして頂きました。



4月になり、熊本県・市としてご協力頂ける見通しが立ちましたので、6月の日本協会評議員会に議題提出され、日本招致がIHFによって決定したら熊本で開催する、ということの議決に至りました。

ここで熊本県協会について述べてみたいと思います。協会発足は1947年（昭和22年）。当時、県立済々黌高校チームの監督の藤田八郎先生の発意によるもので、藤田先生は56年（昭和31年）～85年（昭和60年）を県協会理事長、67年（昭和42年）～93年（平成5年）は日本協会審判審査委員、また、日本教職員連盟理事長、副会長も務められました。この間、熊本県チームの全国大会優勝は85回を数えております。この中で最も回数が多いのはオムロンチームです。男子一般でも今春一部リーグに昇格した本田技研熊本チームがあります。この底辺を支えるのが高校・中学・小学生ですが、今夏は花園小学校（女子）が優勝し、回数を伸ばしております。

このような背景を理解頂いたことが評議員会において熊本開催がスッキリ承認される底流にあったのではと考えております。



開催まであと2年余と、マニュアルのない事業を成功させるには余裕ある準備期間とは言えないと思いますが、熊本県協会として何ができるか、できることを精一杯やり、責務を果たしたいと思います。

それにしても、IHF総会において日本・エジプトの採決の時、エジプトサイドの人が採決を昼食後にしたら、との提案がありましたところ、金アジア副会長から「日本はハッピーランチを待っている」と発言を頂きました。この一言が大変印象に残っております。結果はご承知の通り圧倒的多数で決定。

アジアでの初めての男子世界選手権大会の開催です。是非数多くの方々に世界のトップレベルの試合を眼の前で見て頂きたいものです。

選手団の方々、応援の方々、共に満足して頂ける環境づくりに努力いたします。関係者の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

第15回男子世界選手権大会

日本招致活動総括

段階的に積み上げた成果

井　薫

全国の皆様に１９９７年の第15回男子世界選手権大会の日本招致決定のご報告が出来ます事を大変嬉しく思います。

世界の24ケ国が参加するこの大会を通して、我がハンドボールがサッカー、ラグビーと同じヨーロッパの球技として知名度を高め、世界のトッププレイヤーが国の威信と名誉をかけて戦う88ゲームの予選・決勝の大会から、日本の若い人達が学び、近い将来に世界に肩を並べる方向性をつかむ、きっかけとなるイベントと位置づけたいものです。

世界選手権大会の日本招致と言う夢のような話は、２年前の宮崎県の高校総体時に始まった事は、すでにご承知の通りですが、熊本県協会がこの件で理事会を開いたのが、１９９２年９月。県内、国内のコンセンサスを得て、日本招致委員会のスタートとＡＨＦ理事会への最初の意志表示が93年９月。そして本年の９月９日に「開催地日本が決定」と、まさに凝縮された２年間でしたが、多くの人に支えられた招致活動であり、深い感謝と達成感を覚えます。

近年、国内では岩手・雫石のアルペン、千葉・幕張の卓球、福井・鯖江の体操、さらに広島のアジア大会、福岡のユニバーシアード、そして長野の冬季オリンピックと、地方自治体と競技団体がタイアップしての、世界大会があいついで開催、企画されています。主旨、目的を要約すると、国際イベントを通した21世紀の「地方の時代」実現への、熱きメッセージである事を理解いただくと、ハンドボールに関し中央で聞こえる「なぜ熊本」のおたずねにも、ある程度の答えになると思いますし、大都市に出来ない事が地方都市だから出来る、そんな時代の到来なんでしょう。

これはいま、日本協会が提唱する21世紀のビジョンの中で、緊急かつ重要テーマの国際スケジュールと国内スケジュールとの整理、区分を考える時、開催場所、時期の選択肢に、やる気の地方都市を視野に入れれば随分クリア可能であり、我々もまた積極的なリストラ（基盤の再構築）で、思い切った活性化を計る事が21世紀に生き残れる道だと思います。

熊本に決まった「さあ、お手並み拝見」ではなく、世界は日本を選んだ訳であり、国内の関係者全ての人が、自分自身の大会と認識いただきたいと思います。私はいま熊本でこのイベントが単に24ケ国のハンドボール大会が２週間無事に終わった、成功だったと捉えるのではなく、ボランティアの定着化やホスピタリティを通しての国際体験、その他にも幾つもの波及効果を求めて、成否は５年、10年のスパーンで判断すべきだと思っています。日本協会は強化、審判、普及をはじめ総ての組織で、正面から取り組む事が、自らを高め国際レベルの協会にグレードアップの好機でしょうし、各地方協会もまた同様の視点で日本での世界選手権大会を、いかに自県の普及や競技力の向上に結びつけるかをお計りいただきたいものです。

実質１年間の招致活動でしたが、段階的に積み上げた成果が、エジプトをはじめ他の開催希望国に先んじ得た事と思います。総会のＶＴＲや配布したパンフレットの内容等も、日本とエジプトの差は大きいものでしたが、数多くの招致に携わってきた立場から見る決め手は、渡邊副会長と父上の故渡邊和美氏（前大崎電気社長、ＩＨＦアジア代表理事）の永年に亘るご活躍、実績がいかに世界のメンバーに評価され、敬愛されていたか、これが日本決定の大きなキーワードであったと思います。

日本決定は９月９日正午前に議決されましたが、その日に至るまでの数日間は大変流動的でした。

シェイク・アーマドＡＨＦ会長の指示でアジアの参加国が招集され、刻々と変わる状況の分析、さらに昼夜を問わないロビー活動の数日でしたが、７日の夕方にヨーロッパ連盟が緊急の会議を開き、日本支持を決定したあたりから、日本承認の流れに勢いがついたのを、我々も感じる事が出来るようになりました。

総会での両国の最後のプレゼンテーションが終わり、いよいよ投票という運びの時、アフリカ代表から「投票は昼食後の午後にしたい」との提案がありましたが、金宗河氏がすかさず「こんなに多くの人が関心を寄せている議題は、午後に伸ばすのではなく、今投票すべきだ」と反論され、議長のランス会長により午前か午後かの賛否が問われますと、参加59ケ国の中で過半数を大きく上回る44ケ国が、今行うべきとのグリーンのカードをかかげました。

それを受けてそれでは今、日本かエジプトかを決しようと言う事になり、投票ではなく賛否を問いますと、前回と同数の44ケ国が日本を支持。ランス会長から「クマモト・ジャパン」の宣誓が行われますと、会場は大きな拍手につつまれ、日本決定を祝福して貰いました。

会場横に開設したジャパンコーナー、そしてオランダ協会と共催の夕食会での、太鼓や剣道のアトラクションも大好評で、まさに総合力の成果でした。

決定はしましたが、ＩＨＦとの諸交渉はまさにこれからが正念場。開催地熊本は招致委員会から、準備、実行委員会へと移行して準備に入ります。

全国の皆様のこれまでのご理解に感謝し、これからのご協力をよろしくお願い致します。

第25回ＩＨＦ総会に出席して



日本協会専務理事
中澤　重夫

第25回ＩＨＦ総会は、オランダのノールトウエイクで9月7日の理事会・委員会に引き続いて9月8日、9日の両日開かれ、日本から渡邊副会長、中澤専務理事、そして通訳として当協会国際専門委員会のメンバーである平岡秀雄委員（現在デンマーク在住）の3人が出席した。

総会は8日9時20分からノールトウエイクのグランドホテルの国際会議場で59ケ国出席のもと開会された。今回の総会は日本にとって最大の課題であり、全力投球の議題でもある『1997年・第15回男子世界選手権大会の開催地決定』の審議は、総会二日目の9日11時20分から行われ、立候補した日本から渡邊副会長、松村熊本県副知事、田尻熊本市長がそれぞれの立場で力強い招致演説を行い、引き続いて日本―熊本のビデオが流された。続いてエジプトが立候補演説を、エジプトハンドボール協会長が行い、エジプト―カイロのビデオが流されたが、日本のビデオの方がはるかにすばらしいものであった。



質問もあり、「日本は遠い国である。エジプトは片道の航空運賃を負担すると言っているが、日本はどうか」。渡邊副会長から「チャーター便を考えれば、皆様は格安の運賃で日本へおいで頂ける」と答え、皆から大きな笑いの出る様な雰囲気であった。アフリカ代表からこの採決を昼食後にしてほしいと提案されたが、韓国代表から昼食前に採決を提案。これを採決し、昼食前実施が採択。『よければこれから採決に入る』、とランクＩＨＦ会長が提案。すぐに採決に入り、『日本開催に賛成の国は？』とカード採決となり44枚のブルーカードが上り、『44ケ国賛成と圧倒的多数ですので日本開催に決定します』と採決。『これより昼食に入り、午後は14時開会』と通告した。我々にとってこの歴史的瞬間は〝あっ〟と言う間の出来事であった感じがする。

一昨年の夏がこの大会招致のきっかけであったとすると、約2年の間、精力的にアジア・ヨーロッパと世界を駆けめぐって集約した渡邊佳英副会長をはじめとして、日本協会、熊本県、熊本市、熊本県協会の方々のわずかな日数を集中的に直線で勝負した賜であったと思う。決定した!! これからが大変だぞ、の思いが飛びかう。覚悟を決めてかからねばならないと思った。

この採決が終った直後から、おそらく44ケ国のほとんどの国の代表が、渡邊副会長と私の所へ祝福の握手に押し寄せ、肩をたたかれた。ヨーロッパから離れる初めての世界選手権に寄せる日本への好意と期待だと思う。

世界のハンドボールを宣言したＩＨＦ、また我々もこの機会をとらえ大きな飛躍を願っておるのである。招致に直線的に有効に動き、これからは幅と広さで大き

な成功をおさめたいと期待する。
　この報告も、この歴史的な世界選手権招致決定の場をどうしても報告したかったのであるが、二日間にわたる総会議事の概要は別掲にある報道機関に発表された〈報道通知・25回国際ハンドボール協会（IHF）会議〉が主なところである。少し補足すると、
＊新しく3ケ国の加盟を認め、136ケ国となったが、他にイエメン、スロバキア、マケドニアから加盟の申請が出ている。
＊世界ハンドボールデーに60ケ国が催し物を行った。
＊次回ユニバーシアードはイタリアで開催されるが、ハンドボールが開催種目に選ばれるよう期待されている。
＊世界選手権奇数年24チームで開催。男子は5、6月、女子は12月開催。
＊世界ジュニア選手権奇数年20チームで9月開催。大陸代表は2チーム。
＊1997年トレーナーシンポジウム。
＊1997年チーフレフェリーシンポジウム。
＊ミニハンドボールのテープが作成された。

以上

報道通知 25回国際ハンドボール協会（IHF）会議

1994年9月8日～9日、Nordwijk、オランダ

記念会議に出席した60ヶ国250名の参加者が議決した。
世界の進歩に対応してIHFもその置かれている状況を考え、規約を改訂した。IHFは全く新しい規約策定に取り組んでいる。

下記の開催が予定されている。

●女子ジュニア世界選手権	1995年9月	アルゼンチン
●男子ジュニア世界選手権	1995年8月～9月	ブラジル
●男子世界選手権	1997年	日　本
	（熊本はエジプトに対して意志貫徹）	
●女子世界選手権	1997年	アメリカとロシアが立候補

男女ジュニアは1997年。詳細は後ほど。
新たにマレーシア、ジンバブエ、暫定的にボスニアーヘルツェゴビナがIHFに加盟したことにより、加盟国数は136ケ国となった。
会計主任のGlockはその報国の中で次のように強調している。IHFは財政的に強固ではなく、シンボル的な額が徴収されているだけであるので、これらの国々での行事は危険がある。
いわゆるセックスチェックは世界選手権においてのみオリンピック方式で実施される。
会議において補欠選挙が実施された。第一副会長にDr. Nabil Salem（エジプト）、組織・競技委員会会長にPeter Muhlematter（スイス）が就任した。
第26回IHF会議は1996年にアメリカのHilton Head島で開催される。2年後に第27回会議がアフリカで予定されている。
再び設立されたA·I·P·S（国際スポーツ記者連盟）委員会が紹介された。委員会のメンバーは次の通り。

グエンター・フェイストリンガー（オーストリア）
アレイン・ボイヤー（フランス）
ヨーヘン・レインハード（ドイツ）
トールステン・ホンベーグ（ドイツ）
トーレ・サエター（ノルウェー）
ヤール・ストロエベルク（スウェーデン）
タディウス・クワスニアク（ポーランド）
ジョセフ・シモン（ハンガリー）

以上

ジャパンコーナーでPR



　IHF総会、会場横のホテルフロアー内にて、日本・熊本を紹介するため、ジャパンコーナーを開設し、熊本の四季の風景をパネルにして展示。会場のドーム写真（1万人収容）を飾ったり、また生け花、竹、日本傘を置いて日本のムードを盛り上げた。
　このコーナーにも熊本県・市の女性が着物をきて応対。一緒に写真をとったり、日本（熊本）のことを説明し汗だくだった。
　また地元日本人の川端さん、上王利さん、平岡先生の奥様にも通訳等で大活躍していただき、ご支援に感謝申し上げます。
　エジプト側はロビーでのPRはなかった。新しいフロアー（床）の素材タラフレックスの会社が展示。その他、オランダ協会がミニハンドボールを勧めるパンフ、ポルトガル協会は3～4年先に企画している大会の紹介のパンフが置かれていた。
　新しい提案として、イタリア協会が積極的にビーチハンドボールを推進していて、ボールも持参。ビデオテープも流してくれた。
　10日には浜でビーチハンドボールのデモがあり、ビーチバレーより面白いことを強調。ボールも小さく（衝撃が少ない感じ）握りやすかった。

日本協会だより

9月度常務理事会

日　時　平成6年9月17日(土)
10時30分～17時30分

場　所　岸記念体育館504会議室

出　席　中澤専務理事、松本監事、常務理事7名

一、97男子世界選手権大会について

9月9日、オランダで開催されたIHF総会において、1997年第15回男子世界選手権大会の日本開催が決定した。組織委員会を早急に設立し準備に着手する。

日本で開催するからには、日本チームは6位以内を狙って強化に全力をあげたい。

二、男女ジュニア世界選手権大会日程について

男子　1995年8月21日～9月3日　アルゼンチン

女子　1995年9月5日～9月19日　ブラジル

これに関わるアジア予選のうち、男子は94年10月24日～11月1日までシリアで開催。女子は未定。

三、95年男子世界選手権大会アジア予選について

第三代表決定戦の熊本開催はカタールの承諾が得られず中止。代替案はAHFで検討中。

四、アジア大会について

女子のトルクメニスタンの参加は中止となる見込み。

役員の成田到着に対応できる体制を至急に整備する。

五、オーナー会議運営委員会について

アジア大会終了後に渡邊副会長を中心に数チームのオーナーにお集まり願い、今後の進め方について検討戴くこととした。

六、全日本総合選手権大会見直しについて

ア、大会の位置付け（ネーミングを含む）、参加資格、予選方法などについて継続審議することとした。

イ、来年度大会期日が女子世界選手権大会と重複するため、女子のみ12月21日～26日開催を検討する。

七、社会人ハンドボール大会について

専務を中心に検討委員会を編成し、本年度末までに提案内容を検討することとした。

八、タラフレックス（コート敷物）採用について

日本リーグ東京実行委員会より提案のあったタラフレックスの採用は、費用、効果等の問題あるため当面は見合わせる。

九、登録業務のコンピューター化について

個人登録制度の採用に伴い、登録業務のコンピューター化について提案があり、費用の問題等も含め次回常務理事会で検討することとした。

十、アジア大会記念国際大会について

本年のアジア大会開催を記念して平成7年度に広島において国際大会開催の提案あり、97年世界選手権大会のプレ行事との関係を調整し、実現に向けて検討することとした。

以上

11月度　行事予定

●大会

11/5～12/14	第19回日本リーグ	各地
11/22 ～27	第37回全日本学生選手権大会	京都

●会議

11/12	11月度常務理事会
11/19	平成6年度第2回理事会

■第14回男子世界選手権大会アジア地区第二次予選開催日決定

1995年5月8日～21日、アイスランドで開催される第14回男子世界選手権大会のアジア予選は東アジア1位韓国、2位日本。西アジア1位クウエート、2位サウジアラビアとなり、韓国、クウエートに出場権が与えられ、日本とサウジアラビアに第二次予選（第三代表決定戦）への出場権が与えられた。本年はアジア大会が開催されるため9月までに第二次予選を終了させるよう日本が強く提案して来たが、サウジアラビアとの交渉が難航し、10月4日になりようやく12月30日前後にフランスで開催することが決定した。

■日本リーグ参加各チームの編成変更

第14回世界選手権大会アジア地区第二次予選の開催日の決定に伴い、日本リーグ開催日の変更が検討されたが、開催間近のため変更は不可能との結論となった。

1997年熊本開催が決定した第15回大会のためにも、今回の代表権はなんとしても確保しなければならない。このための事前強化合宿及び大会派遣の期間（12月12日～1月3日）ナショナル選手抜きの編成で日本リーグを開催することとなった。

全国中学校ハンドボール大会に優勝して

指導15年目でつかんだ全国優勝

男子優勝・富岡市立東中学校　斎藤　英邦



8月19日より北海道札幌市において行われた全国中学校大会優勝までの報告をしたいと思います。

直前に行われた全国大会予選の関東中学校大会では優勝を目標していましたが、準決勝で東京の大島中に大敗し代表決定戦で勝ち、第三代表としての出場でした。全国大会までの1週間では精神面での建て直しをはかり、ある程度自信を持たせて大会に臨みました。3月のJOC杯で今年度の関東のレベルは高いと感じていましたので、組み合わせで決勝まで勝ち進めば、過去の大会で1勝1敗であり、ライバルであり、部員相互の友好関係もある大島中と対戦出来ると考えていました。

1回戦は北信越2位の石川県御幸中との対戦でした。序盤は固さが見られましたが、ディフェンスのコンビが取れはじめてからは、落ち着いてプレー出来、18—10で勝つことが出来ました。2回戦は翌日、九州1位の宮崎県の北山中との対戦でした。今大会の一つのヤマ場だと考えていました。北川中の激しい当たりにオフェンスはとまどいましたが、相手の攻撃をよく守り、13—11で辛勝することが出来ました。

午後の準々決勝は東海代表の愛知県の滝ノ水中との対戦でした。2回戦を乗り越えた自信からか伸び伸びプレーし、23—14で快勝することが出来ました。

準決勝は関東1位の東京・国立二中との対戦でした。同じ関東地区ですが、対戦したことがなかったことが結果的にはよかったと思います。攻撃面は何とかなると考え、ディフェンス面でエースの平野君を徹底的にマークし、ディフェンスとGKのコンビで守るよう指示しました。結果的には平野君の強力シュートを5点におさえ、センターの北嶋君にやられた面もありましたが、よく守り通したと思います。残り1秒、エース中沢が速攻崩れからステップシュートを決め、16—15で運よく勝つことが出来ました。

決勝戦は北信越1位、富山県の西條中との対戦になりました。JOC杯の優勝チームでもあり、5月の連休には姿監督と私との縁で富岡まで遠征していただいたりといろいろお世話になったチームです。西條中にも絶対的なエース北川君がおりましたので、ディフェンス面では国立戦と同じように指示しました。攻撃は最初のチャンスに今まで一度も成功したことがないスカイプレーをやってみたらと話し合いました。このスカイが先取点となり、生徒たちは最高に盛り上がり、攻守両面で持っているものすべてを出し切ることが出来ました。結果は23—15と意外な大差で初優勝することが出来ました。

振り返ってみますと富岡市、群馬県大会と2、3点差の接戦が続き、関東大会でも前半の劣勢を後半はね返すという試合ばかりでしたが、全国大会では常にリードを奪い、先行するということが出来ました。関東大会準決勝で大島中に敗戦したことが、今考えるとかえってよかったと思います。

私自身、中学生のハンドボールを指導して15年目という節目であり、全国大会は前任校の甘楽三中男子と平成2年の本校女子と三度目の挑戦でしたが、特に平成2年はエースに直前でケガをさせてしまい監督の未熟さを痛感しました。そんな経験もあり、運やツキもあり今回の優勝があったのだと思います。

最後に高校時代より私にハンドボールを指導していただいた小林進先生（現安中高校長）、宇佐美幸彦先生（現富岡実高監督）にほんの少しは恩返しできたかなと思っております。また開催地の北海道で大変お世話になった同窓の琴似工高の佐藤先生、先輩の田中、林両先生にこの場を借りて御礼申し上げます。大変ありがとうございました。

今後も微力ながら、中学生にハンドボールの楽しさや喜びを教えていきたいと思っております。ご指導の程よろしくお願いいたします。

粘り強さを見せてくれた子供たち

女子優勝・江東区立大島中学校　武末　潤

第23回全国中学校ハンドボール大会は、8月19日から22日まで北海道札幌市で行われました。

先の関東大会で本校は、男女共に第2位となり、一昨年と同様、男女揃って出場することが出来ました。「勝敗だけでなく、日本一いいチームになろう。このメンバーで日本一長く試合をやろう」を目標に生徒たちは努力をしてきました。

その結果、男子はベスト8、女子は優勝という成績を残すことが出来ました。

成績は2回戦で住吉中（山口）に13－11、3回戦で小杉中（富山）に17－15、4回戦で佐伊津中（熊本）に18－16、決勝で住吉中（熊本）に15－11で勝ち優勝しました。

今年のチームは毎年のことながら、体も小さく、運動能力も低く性格的にも大変おとなしい生徒がそろっていました。また3年生も5人しかいなく、都大会までは「全国へ」という目標はあったものの、そのレベルには到底達することは出来ないのではないかと思っていました。しかし夏の追い込みから、気持ちもどんどん高まり、試合をやる度に力を伸ばし、チームの和も固まって行きました。

全国大会では、緒戦から準決勝まで全て逆転勝ち、という粘り強さを見せてくれました。決勝戦では、日本一長く試合が出来る喜びと、自分たちが続けてきた努力に対する誇りが高まり、伸び伸びと楽しくハンドボールが出来たように思います。確かに審判長の先生からは「小さく細かいプレーが多く、ハンドボールの特性とも言えるダイナミックさがない」との批評を頂きましたが、体も小さく、能力も低い子供たちが、細かいパスプレーを磨き、自分たち独自のハンドボールを創り上げていったということは大いに評価出来ることではないかと思っています。

また、大変残念だったのは3回戦で男女が同じ時刻で別々の会場で試合が行われるという最悪の事態になってしまったということです。これについては、組み合わせ抽選が行われた直後から競技委員長、大会本部に問い合わせて、スケジュールの変更をお願いしましたが受け入れられず、さらに現地での監督、主将会議の場でも再度検討をお願いしたのですがかないませんでした。勝敗に関係するから、ということではなく、義務教育の現場として行われている中学生の部活動の発表の場で、顧問教師がそれを見届けてやれないということがあってもいいものかと疑問に思いました。確かに大会要項のその他の欄には、同一時刻に別会場で試合のある場合もあり得る、と書かれていました。しかし、中学生の大会である以上、教育的配慮というものがあってもいいのではないかと思います。共につらい練習を乗り切ってきた3年生の最後の場面で、精一杯のなぐさめを言って上げたい。思い切りほめて上げたい。これは教師であるならば誰もが思っていることだと思います。この生徒たちとは、全国大会の思い出を語り合うことは出来ません。これが私にとっても、生徒たちにとっても一番淋しいことです。

全国大会で私も生徒も色々な意味ですばらしい経験をさせて頂きました。地元北海道の役員の方々には、すばらしい大会を運営して頂き大変感謝しています。子供たちにとって、全国大会はすばらしい活躍の場であり、多くの監督の

先生方や、子供たちと出会い、交流を通して多くのことを学んでいく場であると思いました。私自身もたくさんのことを学ばせて頂きました。女子チームが優勝という結果が出せたのは、地域、学校、父母が一体となったご協力、多くのシンドボール指導者の先生方のお陰と心よりお礼申し上げます。

卒業生も、高校、大学、企業で多くの先生方にお世話になっています。今後もハンドボール界の底辺が少しでも広がるように、またハンドボールを愛する人間が少しでも増えるように、一教師としてまた一ハンドボールの指導者として微力ながら努力していきたいと思っております。

優勝のよろこび

男子優勝・富岡市立東中学校主将　市川　晋尋

僕たち東中ハンドボール部が優勝できた理由の一つに、チームワークの良さがあったと思います。選手一人一人の技術は、決して高いとは言えませんが、3年間、つらい部活を通じて培ったチームワークは、日本一だという自信はありました。また自分たちの持っている全てを出し切れれば、絶対勝てるという自信もありました。

全国大会での試合は、僕たちが1年生の時から目標にしてきたものでした。新チーム結成以来一度も負けずに関東大会まで来ました。しかし、準決勝で東京都代表の大島中に大敗してしまい、今までの自信を失いかけました。しかし大島中とは、うまくいけば全国の決勝で戦えるんだと、また新たな目標を持って全国大会までの練習に打ち込みました。

一人一人が自信を取り戻して行くのがわかりました。今までのエースが点を取りに行く形から、全員が点を取りに行く全員ハンドに変わり、チームのムードも最高でした。

後は個々の力を十分に出し切れるかという事でした。しかし、その心配も無駄な事で、全国の決勝では、今までで最高の試合になりました。決勝のハーフタイムの時、主将である僕はまだ不安がありました。しかしチームメイトは「こんなに面白い試合は初めてだ」と本当に楽しそうでした。その言葉を聞いて、僕も気持ちを切り替えました。「僕たちは、日本一練習したんだ。僕たちが負けるはずがない」と全員確信して、後半は優勝への階段を一気にかけ登り、日本一のチームワークで日本一を勝ち取りました。つらくきつい部活で築きあげたチームワークの勝利でした。

この時程、ハンドボールの、そしてチームプレイの楽しさが分かった時はありませんでした。

優勝のよろこび

女子優勝・大島中学校主将　花俣　めぐみ

全国制覇――これは、夢のような出来事です。今でも優勝出来たという実感はありません。このような思いが出来たのは、いつもあたたかく見守ってくださり、精一杯応援をして下さった地域の方々、先生方、父母のお陰です。

私が今一番感謝している人は、もちろん父や母ですが、それ以上に感謝している人は武末先生です。もし、顧問の先生が武末先生でなかったら、絶対と言っていい程、優勝なんかできていなかったと思います。まして、全国大会出場も無理だったと思います。ここまでこれたのは、武末先生のお陰です。私たちは全国大会に出場したことすら信じられなかったのに、優勝したなんて、もっと信じられません。

今までの厳しく、つらい練習に耐え、逃げずにやってこれたので、このようなとてもすばらしい結果が得られたのだと思います。

武末先生と私たちの勝ちたいという気持ちは、絶対誰にも負けていませんでした。

私は一戦一戦、武末先生の言葉を思い出しながらやりました。「今までやってきたことをやれば絶対勝てる」「みんながあわてた時は、おまえが声を出せ」「おまえは、大島中ハンドボール部のキャプテンなんだぞ」。このような先生の一言一言が私を大きく勇気づけ、そして自信を持たせてくれました。私は誰にも負けないキャプテンだと心の中で強く思っていました。私をこんな強い人間にしてくれたのは武末先生です。

武末先生と3年間一緒にやってきたハンドボールは、とても楽しく、良い思い出です。先生には本当に感謝しています。そして、負けてくやしいはずなのに、一生懸命応援してくれた男子にもありがたく思っています。

私はこれから高校へ行き、また1年生からスタートしますが、つらい練習にも耐えて、先生の言葉を思い出し、自分は大島中のキャプテンだったという事をほこりに持ち、また日本一を目指して頑張っていきたいです。

連載⑫

ハンドボールの指導法

指導委員会委員長　大西　武三

ゲームとチーム戦術

前回、ゲームをもっとやって欲しいと述べたが、では自分達でゲームをやる際に、どんなことを注意してやればよいのだろう。今回はチームの戦術を考える際の手がかりについて述べたい。

ゲームの局面

ゲームをやってみるといろいろな局面があることがわかる。以前、ソリダリティ講習会の報告でルント氏の考えを述べたが、一般的には4つの基本的な局面と反則等によって生み出される特殊な局面の5局面がある。

◇ゲームにおける5局面

1　セットオフェンス
2　セットディフェンス
3　速攻
　①一次速攻
　②二次速攻
　③三次速攻
4　速攻のディフェンス
5　特殊な局面
　フリースロー、7mスロー、退場者が出たときなど

この5つの局面をチームとしていかに戦うか、その方法を準備しなければならない。

5局面の循環

図1は5つの局面が循環する様子を示したものである。5つの局面が同じ経路を通って循環するのでなく、ボールの保持、あるいは保持を失うことによって局面の切り替えが瞬時にしてまた多様な経路で行われる。この基本的な5つの局面や多様な局面の切り替わり局面に対して各チームはどのように攻め守るかチームの戦術を考え練習しなければならない。

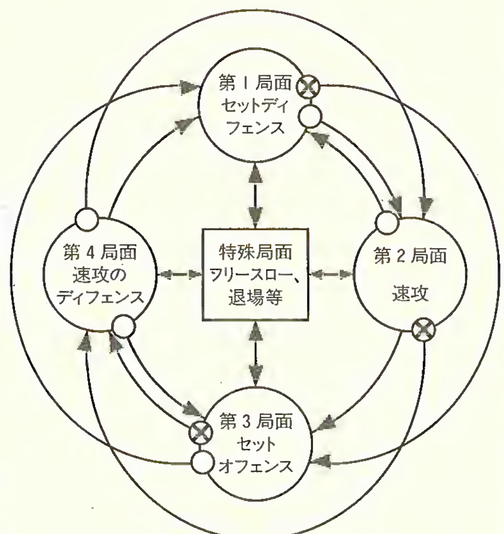


図1　ゲームの局面　無印 通過

速攻について

速攻は一線目にでたプレイヤーがシュートを行う一次速攻、防御の関係によって一線目と二線目の攻撃者が参加することによって行われる二次速攻、そして防御者が帰陣しても一線目、二線目、三線目全体が参加して行われる三次速攻がある。この三次速攻は、速攻のシステム化でありコート全体を使用した6対6の攻防と言える（図2）。

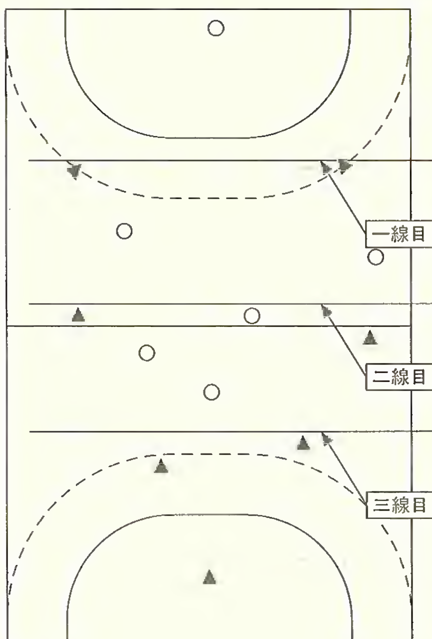


図2

近年のハンドボールの特徴の一つはこの三次速攻である。明確にこの速攻を世界に示したのは1988年のソウル・オリンピックの

旧ソ連のチームである。現在ではトップレベルにあるチームは、この3つの速攻を使いこなしている。常に速攻形態によって相手コートに攻め込むことにより速攻とセットの間に切れ目がなくなりゲームはハイテンポ、スピード化している。

セットの攻防戦術の考え方

セットの攻防局面を時間経過から見てみたものが図3である。チーム独自の戦術はこのそれぞれをどのようにするかによって決まってくる。現場ではいろいろなやり方が見られるが、それにこだわることなく、指導者やプレイヤーの個性によって独自なものを考えてもらいたい。

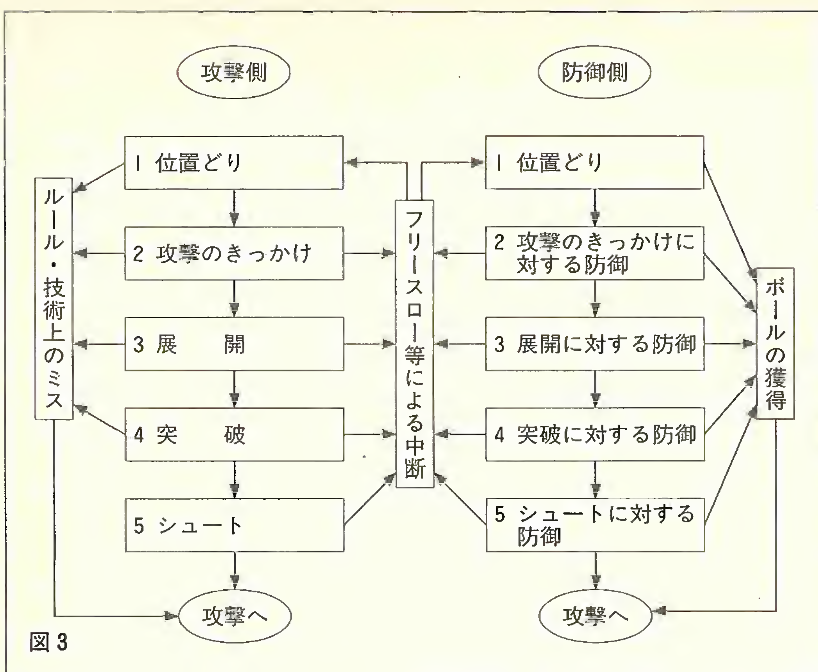


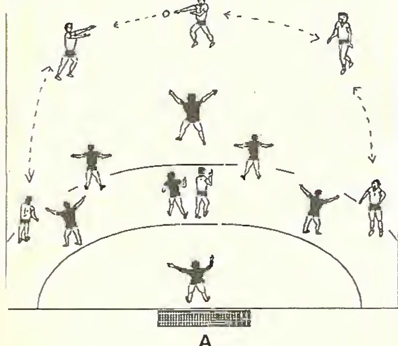
図3

時間経過から見た戦術

図の項目を説明するために標準的なチーム戦術であるセンタースリー（ワンポスト）攻撃と1：2：3ディフェンスを例として具体的に説明したい。

A 位置取り

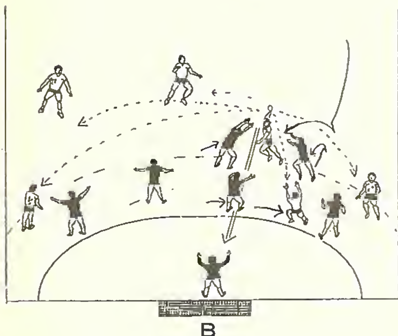
位置取りとはチームとして攻撃あるいは防御するために最初にプレイヤーがポジションに配置することである。図のように攻撃側はワンポスト（3：3）の位置取りを行いパスを回して組織的攻撃の準備をする。防御はマークを確認し、図のように一線目に一人、二線目に二人、三線目に三人と1：2：3ディフェンスの位置取りを行う。この最初の位置取りには各種のものが考えられる（図A）。


A

B 攻撃のきっかけとその防御

攻撃のきっかけは整った防御隊形を崩す最初の攻撃のことである。この攻撃のきっかけをどの位置からどのような方法によって行うかは、戦術として重要である。個人やコンビによるきっかけがあるが、例では45度プレイヤーが個人的な1対1の突破から始めている。ここで防御と攻撃の個人の競技力の差によって各種の可能性が生まれる。

①1対1を突破してシュート、パス
②1対1を阻止されてシュート、パス
③ディフェンスに反則されてフリースロー
④オーバーステップやチャージングによってボールを失う
⑤ディフェンスにボールを奪われる


B

ディフェンスは45度の突破に対してチームの戦術に応じた動きを行う。センターはポストをマークしながらシュートに備える。45度は1対1を阻止すべく守る。トップは45度のフォローをしながらプレッシャーを加える。45度の切り込みに対して3人が積極的に防御し、他はボール方向へ寄りながら次のプレイに備える。

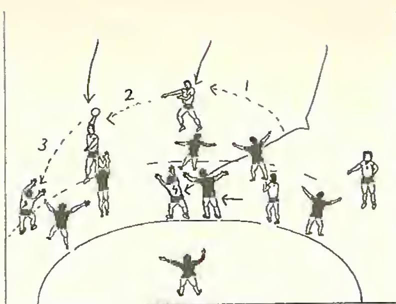
この段階で攻撃側の1対1突破力が上回っていればシュートをしたり、自分を守るディフェンスとフォローにくるディフェンスを引き付けてアウトナンバー（攻撃の数的に有利）を生み出せるので、パスによって有利な攻撃状況を作ることが出来る。1対1防御力が上回っていれば、1対1の状況は崩れず、無理な体勢でシュートを余儀なくされたり、攻撃プレイの遅延や方向づけをされて、ディフェンスを有利な状況にさせてしまう。「ハンドボールは1対1に始まって1対1に終わる」といわれるが、個人の1対1の技術と戦術は、チーム戦術の成否を握る決定的な要因である。

C 展開

Bのきっかけから図のようにパスが回されたとする。各々のパスは各プレイヤーがBと同じ様に多様な可能性の中からパスを選んだものである。その間、ボールを持たないプレイヤーもよい位置を占めるために動いている。ディフェ

ンスを崩さず、あるいはよりよい突破の可能性を求めてプレイをつないでいる状況が展開の局面である。

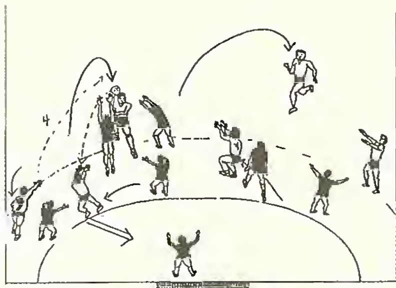
図Cではダブルポストに移行しているが、ダブルポストの状況でのフローターがボールを持っているときの1：2：3防御の基本的な守りは、きっかけのところで述べた各防御プレイヤーの動きに加えて次のことを注意しなければならない。ボールのある側が4：3であり、ない側は3：2のアウトナンバーになっているからである。そのためにトップと45度は対角のポストプレイヤーにパスをされないように注意をしなければならない。



C

D 終結（突破）

展開局面から4のパスを受けたプレイヤーが、多くの可能なプレイの中からポストプレイヤーにアシストパスを入れてシュートに持ち込んだとする。この最終的なグループ戦術によるプレイが終結局面である。きっかけ、展開、終結に用いられる個人的あるいはグループの戦術には各種のものがあり、それを状況に応じて使いこなせるようにしなければならない。防御はボールを獲得することが目的であるが、攻撃の動きについていくフットワーク、ボールを奪うためのテクニック、そして何より相手の動きを先取りして攻撃の意図を摘み取る判断力が必要となる。



D

戦術の原則

チームの戦術は多様なそして複雑な動きによって表現されるが、どんな戦術であってもそこには原則的なものがある。ハンドボールの原則を挙げると、

《攻撃側原則》

1 シュートをねらう（1対1の突破）
2 プレイを継続する（トライアングル）
3 攻撃に厚みと幅を持たせる。

また防御側は、

1 攻撃プレイの中断と遅延（1対1の阻止）
2 ボールの奪取をねらう
3 集散

等があり、この原則を達成するために細かい原則が生まれる。



エネルゲンの栄養成分（100mlあたり）

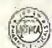
エネルギー	21kcal	アルギニン	0.2g
果糖	5g	ビタミンC	100mg
クエン酸	0.3g	β-カロチン	0.6mg

新製品のご紹介

パワーアシスト
エネルゲン

エネルゲンは、持久運動時のエネルギー補給を目的とし、スパート時に必要なエネルギー源の温存に着目して開発された本格的なスポーツドリンクです。

- エネルゲンには、アルギニン（Arginine）果糖（Fructose）クエン酸（Citric acid）が絶妙なバランスで調製されています。
- スポーツマンの身体をいたわるベータカロチン、ビタミンCを含んでいます。
- さっぱりとした味で水分摂取ができます。運動中の水分補給は、体温調節と体液の確保という2つの理由から、今日では欠かせないものとされています。

大塚製薬は――
日本体育協会のスポーツ医・科学の振興を応援しています。
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

Your Daiwa Staff

ライフプランは暮らしの中でも大きなテーマです。このテーマにトータルにお応えできるのが〈ダイワ〉です。信託もできるべんりな都市銀行として、財産の管理と運用、不動産の売買仲介と有効利用、年金や相続・贈与の設計、ローンのお世話から自動サービス、さらに国際業務と、幅広くバックアップさせていただきます。お客さまとともに明日を創造するBank〈ダイワ〉をぜひご活用ください。



大和銀行



全日本ハンドボール女子チーム
ヨーロッパ遠征報告

スポーツ医科学委員会トレーナー　板倉　尚子（日本女子体育大学健康管理センター）

《はじめに》

1994年10月、第12回アジア競技大会が広島県に於て開催された。全日本ハンドボール女子チームは、アジア大会に備えて今年4月から150日の長期合宿を開始し、8月には実験的な試合経験を積む目的で1カ月のヨーロッパ遠征を行った。今回、トレーナーとしてこの遠征に帯同する機会を得たので、その活動内容について報告する。

《遠征概要》

遠征期間：平成6年8月4日から9月1日の約1カ月間であり、筆者がトレーナーとして帯同したのは8月4日から8月17日までの2週間であった。

遠征先：デンマーク・スロバキア・チェコの各国でナショナルチーム及びクラブチームと試合を行った。またスロバキアでは近隣3カ国と日本を含めた5カ国で行われるスロバキアカップに出場した。

構成人員：団長1名・監督1名・コーチ1名・トレーナー1名・選手17名。合計21名。

［事前準備］

携行物品については移動が多い遠征日程を考慮し、ポータブルタイプのホットパック1台と低周波2台、クリッカー（アイシングの用具）1個とした。テーピング等についても必要最小限にとどめた。また、内服薬及び外用薬はハンドボール協会のスポーツドクター群が準備した携行医薬品リストに基づき医師と相談し準備した。以上の準備については、日本体育協会スポーツ診療所及び日本女子体育大学健康管理センターの協力を得て行った。

［選手のコンディショニング状況］

出発直前の8月3日に行われたJOCメディカルチェック（日本体育協会スポーツ診療所）の記録（河野卓也、山崎哲也医療診断担当）によると、整形外科的には19名中、17名19部位に現疾患を有していた。部位・疾患の内訳は表1のとおりであり、下肢に外傷を有する選手が多かった。その中で河野等による整形外科的評価（表3）に基づき、精査・治療を要すると評価された選手は3名4部位であり、疾患内訳は膝半月損傷（保存例）、膝前十字靱帯損傷（保存例）足関節遊離体、手小指拘縮であった。また、既往歴については、表2のとおりであったが、現在も足関節不安定性を有する選手が4名7部位であった。内科的には感冒によるコンディショニング不良の選手が2名いた。

尚、筆者の遠征派遣決定は突然であり、出発までの準備期間は2週間であった。選手から直接、コンディショニング等の情報収集を行うことは困難であったため、選手の外傷等の情報は、事前に行われたメディカルチェック結果から情報収集せざるを得なかった。

［活動内容］

長期合宿中、選手のコンディショニング管理は各自がコンディショニングカードを記入し、監督・コーチがチェックする方法で行っていたが、テーピング等の処置に関しては選手の自己管理となっていた。処置方法については確認し、痛み等が軽減して

表1　現疾患（疾患内訳）（河野卓也、山崎哲也）

體　　幹（4例）		
腰　部	腰椎椎間板ヘルニア	3例
	腰椎分離症＋ヘルニア	1例
上肢・上肢帯（3例）		
肩関節	肩インピンジメント	1例
手関節	手関節捻挫	1例
手指部	小指拘縮	1例
下　　肢（12例）		
膝関節	膝半月板損傷（保存例）	2例
	膝前十字靱帯損傷（保存例）	1例
	膝前十字靱帯損傷（術後例）	1例
	膝痛	1例
	膝挫傷	1例
下腿部	シンスプリント	1例
足関節	足関節外側靱帯損傷	1例
	足関節遊離体	1例
足　部	足底腱膜炎	3例
		19例

表2　既往歴（疾患内訳）（河野卓也、山崎哲也）

上肢・上肢帯（3例）		
肘関節	肘関節捻挫	1例
手指部	小指PIP脱臼骨折	1例
	母指側副靱帯損傷	1例
下　　肢（13例）		
膝関節	膝前十字靱帯損傷（術後例）	2例
	膝前十字靱帯損傷（保存例）	1例
足関節	足関節不安定性	7例
	足関節外側靱帯損傷	2例
	足関節骨折	1例
		16例

いない選手に対してはコンディショニングを行った。尚、メディカルチェック上「要観察」とされていた選手のうち膝前十字靱帯損傷、足関節遊離体、手小指拘縮の選手については遠征期間中、テーピング等の処置を行い、痛みなどの症状を訴える事なくプレーを続行していた。しかし、膝外側半月板損傷の選手については、腫脹や痛み等の炎症所見や半月板症状を有しており、テーピングやプレー後のアイシングを行ったが、症状は軽快しなかった。

帯同期間中移動日を除いた日数は11日間であり、理学療法を施行した延べ人数は95名で一日平均8・6人であった。理学療法内容延べ数はテーピング77部位、マッサージ45人、ホットパック12人、低周波18人であった。また、痛みを有する部位に対しては、練習や試合後に氷を用意しアイシングを行った。選手は日を追うごとに疲労回復目的のマッサージを希望する選手が増加傾向であった。

また、出発当時は猛暑の気候であった日本から、朝夕には肌寒いほどの気候の現地に移り、更に感冒症状を訴える選手が3名いた。これらの選手に対しては、携帯した内服薬で対処した。また、他の選手に対してもうがいの励行をすすめた。

[まとめ]

今回、遠征にトレーナーとして帯同したが、長期間にわたる合宿や競技的特性から疲労はもとより外傷も多く、医療的なサポートの必要性が伺えた。しかし、今回の遠征では事前に監督、コーチや選手と十分なコミュニケーションをとることが出来ず、トレーナー活動を円滑に行うことが困難であった。今後は事前に選手のコンディショニング状態を把握した後に、遠征に帯同することが必要と思われた。

また、今回の遠征でトレーナーの帯同期間は前段の2週間のみであり、後段期間にメディカルスタッフがいない状態での遠征であった。選手のコンディショニング状態を考慮すると遠征全期間中を通したメディカルスタッフ帯同の必要性を感じた。

[監修：スポーツ医科学委員長西山逸成]

表3 医学的評価 (河野卓也他：Sports medicine Autumn No.5, 85〜91, 1990)

分　類	管　理	スポーツ
A　(正常)	な　し	継　続
B－1(観察)	自　己	継　続
B－2(注意)	指導者	継　続
C－1(精査)	医　師	継続(制限)
C－2(治療)	医　師	中　止

A　　：正常；全く問題なし。
B－1：観察；自己管理しながらスポーツを続けて良い。
B－2：注意；指導者の管理下で注意しながらスポーツを続けて良い。
C－1：精査；医師による精密検査が必要であり、スポーツは続けて良いが練習量や練習方法に制限が必要なこともある。
C－2：治療；医師による治療が必要であり、スポーツは一時中止する。

第19回日本リーグ展望

連覇か日新製鋼、V奪回か湧永製薬

日本リーグ運営委員長　殿水　幸雄

第19回日本リーグは、1994年11月5日から翌年の2月5日のプレーオフ最終日まで全国各地で開催。今回より男子同様女子にもプレーオフ制が導入され、男女各8チームで優勝を争うことになった。

第18回は男子・日新製鋼、女子オムロンが栄冠を握ったものの、前回苦杯をなめた男子・湧永製薬、女子・北国銀行らが精力的なチーム強化を図っており、各チームの実力接近が伝えられ、序盤から目の離せない接戦が予想され、どのチームも"戦国の主役"になりうる可能性は十分。まして前・後期を一気に消化する集中開催だけに、どんな波乱が待ち受けているかわからずホットな優勝レースが展開されるに違いない。

男子の2連続優勝を狙う日新製鋼は、GK宇田川、堀田、野中、坂口、木村、林、源内らの攻防に円熟味を増し、ここ一番での安定感では一歩リード。試合キャリアが今回もチームの進撃を支えるだろう。

V奪回に燃える湧永製薬は、監督兼任の酒巻や玉村、河原、堀田らのベテランに、ヒザの故障のいえた中山と飯田、山口、松谷らの若手大型選手をからませ、中央ディフェンスを190cmクラスで固めた高い壁を武器に勝負を挑む。

3年連続3位の本田技研は、新キャプテンの弥吉をはじめ、2年目の松原、満井、森岡らのヤングパワーを前面に押し立てた布陣、更に"ホンダの顔"となるGK橋本、サイドのスペシャリスト山村らも意欲満々にエンジン全開でスタートダッシュを狙っている。

前回4位ながら後期に入って連勝街道を突っ走った大同特殊鋼は、左腕ヒッター盧鉉錫が抜けたとはいえ、パワフルなエースの林(珍)、センター末岡、ルーキー冨本とでフロータートリオを形成。藤井、荻本らとのコンビで得点のチャンスを切り開き、GK林(康)を軸とした強力な3・2・1DFとで優勝を狙う。

中村荷役、大崎電気、三陽商会もひとつ波に乗ればこわい存在。とくに中村荷役は3年連続得点王を狙う呉とポスト朴に加え、韓国から第三のスーパープレイヤー趙範街を獲得。韓国代表でならした趙のシュート、パスワークは観衆の目をクギづけにしそう。さらには大型アタッカー木浪の加入もあって攻撃の破壊力が大幅にアップし、がぜん注目の存在になってきた。

大崎電気も左腕ヒッター森本、センター永山の加入が刺激剤となり、ベテラン首藤や魚住らと共にどこからでも得点が狙える攻撃陣が完成した。

前回も"指定席"の7位に甘んじ、実に15年連続入れ替え戦に回ったものの、5勝2分7敗の星を残して上位陣に肉薄した三陽商会は、リーグ初の2mプレイヤー岩本が2年目を迎え、真のスターとなりそうで、田中、渡辺らの中軸に新加入の五島、GK荒木が台頭し「今年こそ三陽旋風を」と意気込んでいる。

そして、念願の1部入りを果たした本田技研熊本。2部からの自動昇格チームが56連敗中と毎回厚い壁に跳ね返されているが、「これまでのチームとは違うぞ、と思わせたい」と闘志満々。寺嶋、堀内、花岡らを軸とするコンビプレーに磨きをかけ、ユーゴスラビア・ジュニア代表の肩書きを持つA・マルコビッチらと共に"1部定着"へ全力投球だ。

女子も混戦必至

女子も男子同様の混戦が予想される。比嘉、中山らが抜けたオムロンは、もともと川島、王のGK二枚看板を軸とする手堅いDFが売り物だけに、そう大崩れは考えられない。橋本、古田、西村、張の気迫の攻守に高橋、田中、太田黒ら若手シューター陣のパワーがかみ合えば三連覇の夢もグッと近づく。

ロング陣が小粒になった北国銀行は、谷本、松下、上出の全日本トリオに、山崎、田中(美)、ルーキー大林らをからめ、さらに持ち前の機動力攻撃に磨きをかけてリーグ突入となる。

貴田、松本のロングコンビが力を伸ばした日立栃木は、オールラウンドのベテラン市来や陳、堤、さらにポストで小柏のほか新たに中国代表の王瑋が加わり、多彩な顔ぶれがそろい伊佐野らの速攻陣も元気いっぱいに「ストップ・ザ・オムロン」「打倒・北国銀行」に狙いを定めている。

大崎電気は、バルセロナ・オリンピック金メダリストの朴、白の韓国コンビに、若手成長株の広瀬、ポスト本間、クセ者役の杉原、北村、GK今野と役者がズラリ、女王復活に赤い気炎をあげての登場だ。

山田、吉村、土師らのベテラン、中堅陣に池田、琴谷、山岡らのヤングパワーを配したジャスコ、9人の"新鮮力"を加えて陣容が入れ替わったものの小松、山岸の強力ロングとGK村山の堅守が健在なシャトレーゼ、この両チームの挑戦ぶりも見もの。

大崎電気と共に復活をかける大和銀行は、山尾、西口、野村らの大型選手のパワーと、移籍の小俣、ルーキー久保、売り出し中の田中らのスピードをミックスさせて上位を狙い、10年ぶりに1部に返り咲いたJUK

Ｉは、飯田、永尾、村実、和久田、高塚、ＧＫ久保と、ここ数年主力を務めてきた若いメンバーの爆発力にかける。

2部の争いも熾烈

２部勢も昇格をかけ熱戦が展開されそうである。男子は、再起を期すトヨタ車体を中心に、着実に地力を伸ばしている日本電装、北陸電力が上位グループを形成、有力新人の加入で活性化を図った三景も〝名門復活〟に燃えている。１部経験を持つトヨタ自動車は最近の低迷ムードを吹き飛ばせるかどうか。大阪ガス、豊田自動織機の上位チャレンジの一方で、リーグ初見参となる新鋭トクヤマの戦いぶりにもスポットライトがあたる。

女子は前回１部上位に肉薄したブラザー工業が首位をひた走りそう。ソニー国分、ムネカタも、２部１位が１部自動昇格となるだけに〝一発〟を狙って虎視眈々。男子トクヤマと共に新加入のイズミは、韓国のバルセロナ・オリンピック優勝の原動力となったセンター林五卿、姜鐘環を目玉に、

日本リーグ日程表(前期)

	一部			二部		
月日	会場	男子	女子	会場	男子	女子
11/5(土)	青森	本田×大崎	シャトレ×大崎			
11/6(日)				東海		ブラザ×イズミ
	東海	大同×中村	日立×ジャスコ	長崎		ソニー×ムネカタ
	長崎	三陽×本熊	オムロン×北国	調布	北電×大ガス	
					電装×織機	
					トヨタ×三景	
11/8(火)	東京	中村×三陽	大和×JUKI			
11/9(水)	東京	湧永×三陽		東京	三景×織機	
		日新×中村				
	名古屋	大同×本熊				
11/12(土)	呉	日新×大崎	北国×JUKI	呉		ソニー×イズミ
				徳山	車体×北電	
					大ガス×トクヤマ	
					電装×トヨタ	
11/13(日)	東根	本田×大同	大崎×大和	広島		ブラザ×ムネカタ
			オムロン×日立	徳山	車体×大ガス	
	広島	日新×三陽			電装×三景	
		湧永×中村			トヨタ×織機	
					北電×トクヤマ	
11/19(土)	浦和	大同×大崎	日立×JUKI	豊橋	電装×北電	
			北国×大崎		三景×トクヤマ	
	四日市	本田×本熊	ジャスコ×シャトレ		車体×トヨタ	
	大阪	日新×湧永	オムロン×大和			
11/20(日)	栃木	中村×大崎	北国×日立	大阪		ブラザ×ソニー
	土浦	大同×三陽	大崎×JUKI	豊橋	電装×大ガス	
	大阪	湧永×本田	ジャスコ×大和		北電×織機	
	岡山	日新×本熊	オムロン×シャトレ		トヨタ×トクヤマ	
					車体×三景	
11/23(水)	山梨	中村×本熊	ジャスコ×大崎	本宮町		ムネカタ×イズミ
			日立×シャトレ			
11/26(土)	府中	本田×三陽	シャトレ×JUKI	豊田	北電×三景	
	岐阜	湧永×大同	オムロン×ジャスコ		トヨタ×大ガス	
			北国×大和		電装×トクヤマ	
					車体×織機	
11/27(日)	府中	本田×中村	オムロン×JUKI	小松		ソニー×イズミ
	藤沢	大崎×三陽	シャトレ×大和	高松		ブラザ×ムネカタ
	小松	日新×大同	北国×ジャスコ	豊田	織機×トクヤマ	
	高松	湧永×本熊	日立×大崎		三景×大ガス	
					北電×自動車	
					車体×電装	
12/3(土)	朝霞	湧永×大崎	北国×シャトレ			
12/4(日)	朝霞	大崎×本熊	オムロン×大崎	朝霞		ブラザ×イズミ
	高砂		ジャスコ×JUKI	高砂	大ガス×織機	
			日立×大和	国分	車体×トクヤマ	ソニー×ムネカタ
	国分	日新×本田				

フレッシュな顔ぶれで一気の浮上を狙っている。

記録の行方

記録の方も、湧永製薬が日本リーグ通算150勝にあと1勝。個人記録も男子が前回、通算最多得点記録を塗り替えた監督兼任の西山（日新）がさらにその記録をどこまで伸ばせるか。また、前回95点をたたき出した玉村（湧永）が史上3人目の600得点にあと73点に迫り、前回のペースで得点を重ねれば今シーズン中に達成されそう。玉村と共に前回得点王に輝いた呉（中村）も400得点にあと2点でこちらは第1戦の対大同戦で達成が濃厚である。さらに首藤（大崎）も6点で史上4人目の500得点を達成する。

女子も現役通算最多得点のシャトレーゼ山岸が8人目の300得点にあと44点、前回49点をあげており、今シーズンでの達成の可能性は十分。また、同チームの小松も200得点に16点と迫っている。

日本リーグ日程表（後期）

	一部			二部		
月日	会場	男子	女子	会場	男子	女子
12／14(水)	東京	三陽×日新	JUKI×日立			
12／15(木)	東京	三陽×中村				
12／17(土)	京都	湧永×三陽	オムロン×JUKI			
12／18(日)	盛岡	大同×大崎	日立×大崎	盛岡		ムネカタ×イズミ
	前橋	日新×中村	シャトレ×大和	大分		プラザ×ソニー
	大分	本田×本熊	北国×ジャスコ			
12／23(金)	湯沢	大崎×本熊	北国×シャトレ	石川町		プラザ×ムネカタ
		湧永×大同		福井	車体×トクヤマ	
	四日市	日新×本田	オムロン×ジャスコ		電装×織機	
	石川町		大崎×大和		三景×大ガス	
					北電×トヨタ	
12／24(土)				福井	車体×織機	ソニー×イズミ
					トヨタ×大ガス	
					電装×トクヤマ	
					北電×三景	
12／25(日)	知立	大同×本熊	シャトレ×JUKI	知立	車体×トヨタ	
	福井	湧永×中村	北国×大和	福井	電装×北電	
	徳島	日新×大崎	オムロン×日立			
			ジャスコ×大崎			
1／7(土)				西宮	トヨタ×トクヤマ	
					北電×織機	
					電装×大ガス	
					車体×三景	
1／8(日)	志木	大同×中村	北国×JUKI	宮崎		ソニー×ムネカタ
	松山	本田×大崎	日立×シャトレ	西宮	トヨタ×織機	
			ジャスコ×大和		北電×トクヤマ	
	宮崎	湧永×本熊	オムロン×大崎		電装×三景	
					車体×大ガス	
1／14(土)				刈谷	車体×北電	
					電装×トヨタ	
					三景×織機	
					大ガス×トクヤマ	
1／15(日)	横浜	本田×中村		神戸		プラザ×イズミ
		大同×三陽		刈谷	車体×電装	
	神戸	湧永×大崎	ジャスコ×シャトレ		トヨタ×三景	
	熊本	日新×本熊	北国×日立		織機×トクヤマ	
			オムロン×大和		北電×大ガス	
1／16(月)	横浜	本田×三陽	大崎×JUKI			
1／21(土)	北本	中村×本熊		岐阜	三景×トクヤマ	
		大崎×三陽				
	岐阜		ジャスコ×JUKI			
	堺	湧永×本田	日立×大和			
	呉	日新×大同	北国×大崎			
			オムロン×シャトレ			
1／22(日)	市川	三陽×本熊		広島		ムネカタ×イズミ
		中村×大崎		鹿児島	大ガス×織機	プラザ×ソニー
	名古屋	本田×大同	大和×JUKI			
			日立×ジャスコ			
	広島	日新×湧永	シャトレ×大崎			
			オムロン×北国			

☆プレーオフ大会　2月3日(金)～2月5日(日) 東京（駒沢体育館）

asics®

そのグリップ力が、フットワークを変えた。

スカイハンド®GC-α。



かかる加重に合わせて5つのグリップホール
がフロアをしっかりグリップ。
敵のディフェンスをくぐり抜け、自在のフットワーク
を生む、スカイハンド®GC-α。

がんばれ!ニッポン! キャンペーン
JGS-18
OFFICIAL SPONSOR

THE 12th ASIAN GAMES HIROSHIMA 1994
HAGOC-O-116
OFFICIAL SUPPLIER

品名 スカイハンド®GC-α 品番 THH502 メーカー希望小売価格 ¥14,500（消費税抜き）
カラー/ ●ホワイト×Ⓦグレイッシュパープル・メタルゴールド ●レッド×Ⓦパールホワイト・メタルゴールド
サイズ/23.0〜28.0cm

αGEL GELCHARGER®

株式会社アシックス ●Ⓡは㈱アシックスの登録商標です。●商品についてのお問い合わせは株式会社アシックスお客様相談窓口までどうぞ。〒650 神戸市中央区港島中町7丁目1番1 TEL(078)303-2233(専用)・(078)303-3333(大代表) 〒130 東京都墨田区錦糸4丁目10番11号 TEL(03)3624-1814(専用)・(03)3624-2221(大代表)

成功させようアジア競技大会

イズミは 公式スポンサー(スーパーストア)として支援しています。

第12回アジア競技大会広島1994

●開催期間 平成6年(1994)10月2日(日)〜16日(日) 15日間
●開催地 広島市を中心とする県内地域



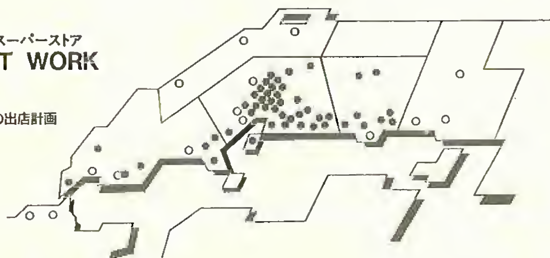
HAGOC-O-007

ゆめの数だけ、感動がある。

その日のために、夢のために、今まで頑張ってきた自分を信じて。
力いっぱい打ちこむキミの姿に、語り尽くせない感動が生まれる。
イズミは、そんな感動に満ちたハンドボールシーンに心からエールを贈ります。

中国地方最大のスーパーストア
IZUMI NET WORK

●……既存店
○……94年度からの出店計画



毎日が新しい



本社/〒732 広島市南区京橋町2-22 TEL(082)264-3211(代)

第2回韓中日ジュニア交流競技会報告

◆**競技成績**

【第1戦】8月26日㈮

男子

日本15	9－8 / 6－10	18	静石航空工業高

女子

日本20	8－16 / 12－12	28	徽慶女子高

【第2戦】8月28日㈰

男子

日本18	7－15 / 11－12	27	南漢高

女子

日本14	4－15 / 10－10	25	貞信女子高

第2回韓中日ジュニア 交流大会に参加して

日本高校選抜男子監督 高橋 精一

8月25日から30日の5日6泊、韓国・済洲島に於て、9種目のスポーツ親善交流が行われた。

団体競技での参加種目は、ハンドボール、サッカー、ラグビーの3種目で、男女参加はハンドボールのみであった。

スタッフ6名と選手24名の30名が、日本選手団として行動を共にした。

25日、済洲島到着後、空港近辺の海岸を約30分程度観光し、その後、19時から漢拏（ハラ）体育館にて全体開会式、夕食をとりながらのレセプションが盛大に行われた。全てが終了しインペリアホテルに到着したのが22時前で、中国・日本全種目の選手が同宿で、フロントが大変混雑し、各部屋に落ち着いたのが23時前。選手たちにとっては、慌ただしい一日だったのではないかと思う。

ハンドボール男女は、例年選抜大会優勝チームが親善交流に参加していたが、第2回より高体連を離れ、日本協会強化部のジュニア強化対策の一環として全国ジュニア選抜チームを作り参加した。しかし、今回の選手選考は、全国選抜大会出場者を中心にリストアップした者と、各ブロックからの推薦選手として選考会を男女共実施し12名選出したのだが、本大会日と国体予選ブロック大会の日程とが重なり、選出メンバーを全員帯同できず、すでに予選を終えたブロック、あるいは日程調整をしてくれた近畿、東海、四国ブロックから新たに選出仕直し12名選考した。

男子チームは、23日から大阪・大和銀行体育館を借用し、2泊3日の短い合宿であるが、即席のチーム作りをして親善交流試合に挑んだ。

26日、第一戦は14時30分より漢拏体育館に於て韓国ナンバー1チームの静石航空高校と対戦した。結果は15―18で惜敗した。

前半、GK藤沢を中心とした守りから速攻で得点を重ね9―8。1点リードで折り返した。後半、15分過ぎまでは完全に日本ペースで3点リード。あと1点取れば勝利目前と思っていた矢先に手痛いミス。悲しいかな、コンビ練習不足で、リズムが狂い出すと歯止めがきかず。結局、5連続失点を許してしまい逆転負け。

相手チームの特徴は、両フローターのジャンプ力とパスワークの正確さ。

ポストには186cm、90kgの選手が位置しており、特に後半、汗でボールがすべり、ミドルシュートが打てないと判断、バックパスを中心にポストへボールを集め、7mスローの連発。将来、韓国ナショナルチームのポストマンとして活躍し得る選手一人と確信する。

第二戦、28日。同体育館で16時30分よりナンバー2の南漢（ナムハン）高校と対戦。結果、18―27と大敗。

一戦目で惜敗したのでこの試合は勝ちを意識しすぎたのか、アップ時から全体に重い雰囲気が漂うと共に、足も重く、そのままの状態で試合開始。前半、7―15と大差。日本チームのディフェンスが悪く、また攻撃面においてもパスミス、キャッチミスの連続で、シュートを打つまでもなくそのミスを得点されるというお粗末な内容であった。

前半で勝敗がはっきりしてしまう一方的な試合だった。相手チームの特徴は、センターの選手がフェイント、パス、シュートに抜群の能力を発揮。1試合で16得点を許した。

結局、2戦2敗で終った親善交流であったが、ジュニアチームとして韓国遠征を含め、毎年体験しているが、前回も述べた通り、余り以前のように大きな差はなくなり、十分な選考メンバーで対戦できていたなら2戦2勝も夢ではなかったと思う。

来年は、中国・唐山で実施決定。ハンドボールも参加と部長より聞き、存分に戦うためにも選考されたメンバーが参加できるよう、国内日程をぜひ調整して下さることを監督としてお願い申し上げます。

将来の日本ハンドボール界を担うジュニア選手の中から、世界に、アジアに通用するプレイヤーを育てていくことに、我々スタッフ一同努力していきます。

第2回韓中日ジュニア 交流大会に参加して

日本高校選抜女子監督 井上 亮一

8月26日、韓国ナンバー1代表の徽慶女子高校との第一戦が午後4時に試合開始される。開始早々から1：2：3ディフェンスをひかれて戸惑い、パスカットをされ、追い込まれ、シュートを打たされたり、リズムがつかめないまま、開始早々4～5点のハンディを背負ってのスタートとなった。7分を過ぎた頃からようやくリズムを取り戻し、板谷・西田・澤等のシュートで反撃を行うが、スタート直後の失点が大きく、前半を8―16で終了する。後半は相手のシステムディフェンスも分かりかけ板谷・西田・岡田等の活躍で同等のゲームを展開するが、余りにも前半の失点が大きく20―28で第一戦

を失う。
8月28日、貞信女子高校との第二戦が午後5時10分に開始される。第一戦の反省から、27日の練習日に1：2：3ディフェンスの崩し方等を練習し、このゲームに賭ける気持ちで試合に臨むが、またも強烈な1：2：3ディフェンスを仕掛けられ、また相手エースが180cmの大型選手でロングシュートを打たれ、韓国独特のフェイントでディフェンスを翻弄され、前半半ばで9点の点差がついてしまい、手の施しようもない状態であった。散発に得点を挙げるにとどまり、前半を4－15で終了する。後半は日本のディフェンス体型を1：5のシステムを取り対抗する。相手の攻撃が中に入っての攻撃が多く、トップを守る小兵（149cm）の岡田がしつこいディフェンスで大活躍と、村瀬・伊藤・西田の攻撃での活躍で何とか面目を保った試合であった。

二試合とも完璧に力の差を見せつけられた。混成チームの欠点をさらけ出す展開になり、崩れた時の建て直しがきかない状態が何度もあり、多くの課題を与えられ、実りのあった交流大会であった。またこのようなユースチームとして初めて交流大会に参加し、ほとんどの者が初めての国際試合経験であった。これを機会に、選手選考を早めに行い、チームとしての取り組みを早めに多く経験することによって、近い将来、韓国に追いつき追い越す時が来るのではないかと思います。ユースナショナルとして、今始まったばかりです。将来を見つめ、このユースの選手たちの活動を大切に育て、多くの経験をさせていただきたいと強く感じるとともに、責任を痛感致しました。

選手のひとこと

■小薮　憲次

ジュニアのメンバーとして、またキャプテンという役目をしたこの遠征で、自分自身が一回りも二回りも大きく成長すれば良かったのですが、こういう選抜されたチームをいかに一つにまとめていけばいいのかという難しさを痛感させられました。

■武藤　崇之

韓国は練習に執着し、ボールに執着しています。これが自分に対しての厳しさ、練習の厳しさなのだと思いました。日頃、培われてきたこの厳しさが一つ一つのプレーに生かされているのです。

■所　努

反省するところは、まず試合前の気持ちの入れ方。それにアップ。すべての面で相手より劣っていたという点だ。その上、試合中に自分自身何をしなければならないのか、ということを考えて動けなかった。一番残念だったのは、自分のカラーである元気のよさが初戦に出せなかったことだ。

■瀬尾　実

すごい勉強になりました。これをバネに今度のジュニア選考会に身も心もしっかり鍛え直して、選考されるように頑張ります。もう一度「JAPAN」という字にチャレンジしてみたいです。

■樋下　孔士

僕はこの交流会で、あらためて韓国のすごさを知りました。それと同時に日本の全国のレベルも知りました。僕はまだまだへたくそで、一緒にやった仲間と同じレベルではないと思った。まだまだ練習しなければならないと思った。

■鈴木　信次

交流競技会を通して、新たにまた友達がふえました。今までと違う生活を送り、今までと違う友達と行動をして、毎日がとてもよかったです。今まで見えなかった面が、少しずつですが見えてきたように思います。本当によい勉強になりました。

■坂下　祐司

僕はこの8日間に、練習、試合、メンバーの人達とのコミュニケーションにより、これからハンドボールを続けていくのにとても大切なことをとても多く勉強することができたと思う。これをこれから活かしていきたいと思う。

■藤沢　輝明

韓国のプレーさばきは想像以上でありました。個人の技はもちろんのこと、コンビネーションは抜群でした。基本的なフットワークから始まり、フェイント力、ステップシュートなどのシュート技術は、日本では見られないパワフルなものでした。

■下川　真良

結果は2連敗で終わってしまいましたが、今回の韓国遠征で、僕だけじゃなく個々に学んだことがたくさんあったので、これを練習に生かしていきたいと思います。そしてまた機会があれば韓国のチームを負かしたいと思います。

■井上　博人

韓国のチームの印象としては、両チームともパス回しが早く、フェイントが良かったです。特にパス回しはとても上手で、それだけでずらされて何本もポストに入れられました。背はそれほど高くなく、日本の方が高いように思われましたが、ジャンプ力、パスの正確さで負けていたように思います。

■澤　麻理子

私にとって韓国に遠征するのは今回で2回目であったが、今回は日本の代表選手として、前の時よりプレッシャーがあったのは事実です。韓国の1位、2位のチームと試合をするということで、自分のプレーがどこまで通用するのかどうか、また、キャプテンとしてしっかりやっていけるのかどうか、はじめはとても不安でした。本当にいろいろと勉強になった面が多かったと思う。

委員会だより

普及委員会

平成6年度普及委員会第1回小学生専門委員会議事録

期　日　平成6年7月29日㈮
会　場　オムロン京都本社
出席者　高田智史（北海道）塩田幸男（東北）小川秀樹（関東）栗本士郎（東海）中山重一（北信越）北和人（近畿）田浦　博（中国）平木一令（四国）松井　光（九州）小西博喜（協会）佐路清隆（事務局）

《議　題》

1、全国小学生大会モルテン使用球（1号球）について
新規格品（本年度より採用）
●革の縫いボール（32面体）
●大きさ49・5～50・5cm（台湾51・5cm／韓国50cm／デンマーク46cm）
●重さ250～280g（台湾330g／韓国280g／デンマーク260g）
①ミカサボールの外周が少し大きいのではないか。
②モルテンボールの製造が遅れている。
③空気のツメ方（空気がぬけていく）。
◇モルテン㈱側（営業技術部）
●ボールはサッカーと同じように空気を入れっぱなしにせず、使用する際1回ごとに空気を入れる構造に出来ている。
●ボールの形（大きさ）も変形しないように考慮している。更に技術的に研究中。

2、平成7年度小学生チームの登録と機関誌購読について
平成6年度から小学生チームの登録制度を実施する（チーム・メンバー登録のみ）ので7年度から出来れば年間購読料を義務づけることを協議（年間5000円）し、承認された。なお、各ブロック委員は小学生活動の情報があれば、機関誌編集委員会へ投稿し情報を交換する。
(例)各ブロック小学生大会・予選会等（記録）、東・西日本小学生大会（記録・写真・感想等）
各ブロック小学生国際親善交流試合他

3、平成7年度全国小学生大会の名称変更について
日体協スポーツ少年団を主催に入れた場合の改正点の内容について協議し、承認された。
①平成7年度は現行の形と日体協スポーツ少年団を平行した形で認めていく。但し、大会名称は従来の名称を変更する。
「第8回全国スポーツ少年団ハンドボール大会」の名称を採用する。
②この大会が自由参加の形では教育委員会側の理解度が低い（補助金の関係）ので、各都道府県協会長推薦の形式をとり、推薦書を添付することに決定した。

4、平成6年度第2回東日本小学生ハンドボール大会（主催・山形県ハンドボール協会）、平成6年度第1回西日本小学生ハンドボール大会（主催・香川県ハンドボール協会）の2大会は、㈶日本ハンドボール協会の後援を依頼する。

5、第8回全国スポーツ少年団ハンドボール大会の諸会議を大会前日（午後）に開催することが承認された。
(例)1、審判会議　13時～14時
2、監督代表者会議　14時～15時
3、開会式　15時30分
4、競技　従来通り3日間（田辺中体育館、同志社大学体育館、八幡市民体育館）

6、韓・台・中小学生国際交流試合は検討課題とし、今後コンタクトをとる。

7、全国ブロック別小学生ハンドボール大会について
ブロック大会終了後、ブロック理事長より日本協会へ大会終了届を提出すれば補助金10万円の交付が受けられる。

8、第7回全国小学生大会の協賛企業について次の通り承認された。
《協賛金》
オムロン㈱京都本社　100万円
モルテン㈱　100万円
東急観光㈱京都支店　50万円

9、平成6年度第7回大会より文部省後援が決定した。

（報告者：小西　博喜）

平成6年度普及委員会第1回中学生専門委員会議事録

期　日　平成6年8月18日㈭
会　場　札幌市中島体育センター
出席者　加藤正喜（中体連本部）、真田元（関東）、清水勝（北海道）、根本真（東北）、谷口孝治（北信越）、溝口博一（東海）、佐々木英明（近畿）、望月裕之（中国）、竹内強（四国）、妻鹿実（九州）木野実（協会代行）

《議　題》

1、平成6年度第3回JOCジュニアオリンピックカップ・ハンドボール大会について
①旅費、宿泊費等で受益者負担になっている。補助金の増額を検討して欲しい。各都道府県協会の補助金がない。今後どうすればよいのか。日本協会から各都道府県協会に対し、助言指導を願いたい。
②本年度、ミズノ㈱協賛金は200万円。大阪協会より各ブロックの補助金は10万円が交付された。
③第2回大会のJOC優秀選手3名は、6月にJOC研修会に参加、認定された。また監督も表彰された。

2、平成7年度第4回JOC大会について
①会期　12月25日㈪26日㈫27日㈭の予定
②試合形式及び参加チーム数
決勝トーナメント予選リーグ及び方式を実施する。
●3チームの4ブロックリーグを行う。
●4チームによる決勝トーナメント。
●チーム数は12チーム（現行10チーム）。「東海」と「関東」の2チーム増とする。

3、平成8年度以降（第5回大会）の問題点について
参加チーム数増及びローカルルール（特別ルール）については継続審議とする。

（報告者：小西博喜）

各地の大会結果

関東

東日本学生選手権大会

（日時・会場不明）

◎男子

▼準々決勝

早大 27－25 日体大
順天大 24－18 東海大
筑波大 27－17 中央大
国士大 34－22 函館大

▼準決勝

順天大 24－13 早大
筑波大 22－21 国士大

▼3位決定戦

国士大 27－24 早大

▼決勝

筑波大 21－17 順天大

◎女子

▼準決勝

東女体大 29－16 日女体大
日体大 23－19 筑波大

▼3位決定戦

筑波大 27－15 日女体大

▼決勝

日体大 25－24 東女体大

※男子・筑波大は8年ぶり4回目の優勝。女子・日体大は9年ぶり5回目の優勝。尚、優秀選手として次の選手が表彰された。

▽男子中川繁将（筑波GK）児島悟（筑波CP）益岡弘幸（筑波CP）田村貴司（順天CP）米満政佳（順天CP）松本幸介（国士CP）須藤武志（早大CP）

▽女子安田真由美（日体GK）小貫佳代子（日体CP）何剣萍（日体CP）村上美香（日体CP）山田美智代（東女体CP）児島愛（東女体CP）稲次彩（筑波CP）

東京都高校総合体育大会

（日時・会場不明）

◎男子

▼3回戦

東海大菅生 26－19 都三鷹
都本所 25－11 都世田谷
都八王子東 23－17 都国分寺
都西 14－11 青山学院
都片倉 15－14 昭和第一学園
修徳 26－16 城北学園
錦城 16－6 都小金井北
都淵江 25－18 都江戸川
東大和南 24－15 都東村山
都小岩 22－14 筑波大駒場
都富士森 22－19 都府中西
安田学園 20－17 都荻窪
都調布北 19－14 都南平
城西 21－17 日大二
都富士 29－5 都目黒
都蒲田 22－17 都新宿

▼4回戦

東海大菅生 25－13 都本所
都八王子東 25－18 都西
都片倉 25－15 修徳
都淵江 20－17 錦城
東大和南 22－22 都小岩
2PTC1
安田学園 18－12 都富士森
都調布北 13－12 城西
都富士 13－10 都蒲田

▼5回戦

東海大菅生 21－17 早大学院
成城 22－17 都八王子東
都南多摩 34－13 都片倉
日体荏原 32－15 都淵江
都久留米 19－14 東大和南
都東大和 18－12 安田学園
武工大附属 18－11 都調布北
都立川 16－13 都富士

▼6回戦

拓大一 25－16 東海大菅生
成城 16－15 都神代
明星 26－16 都南多摩
都永山 26－14 日体荏原
東京 23－8 都久留米
都府中 26－18 都東大和
武工大附属 18－11 都久留米西
農大一 19－12 都立川

▼準々決勝

拓大一 29－12 成城
明星 24－15 都永山
東京 24－18 都府中
農大一 19－12 武工大附属

▼準決勝

明星 19－14 拓大一
東京 19－19 農大一

▼決勝（順位決定戦）

明星 21－14 東京
拓大一 21－18 農大一
拓大一 20－13 東京
明星 26－19 農大一

（順位）①明星②拓大一③農大一④東京

女子

▼3回戦

都国分寺 11－4 東京
都五商 8－7 青山学院
都日野台 20－16 都石神井
都国立 10－5 都豊多摩
都本所 11－9 武蔵野女子
都小岩 13－11 拓大一
都調布北 12－2 都墨田川
農大一 14－11 都久留米

▼4回戦

都久留米西 12－5 都国分寺
都五商 8－7 東海大菅生
都富士 19－14 都日野台
都国立 7－5 都神代
明星学園 10－6 都本所
都小岩 15－12 桜華女学院
都東大和南 4－3 都調布北
都富士森 13－7 農大一

▼5回戦

佼成女子 15－6 都久留米西
都蒲田 13－6 都五商
藤村女子 23－12 都富士
菊華 12－10 都国立
都江東商 20－10 明星学園
白梅学園 15－10 都小岩

都大森東 13－4 都東大和南
文化杉並 25－5 都富士森

▼準々決勝
佼成女子 28－7 都蒲田
藤村女子 25－14 菊華
都江東商 14－11 白梅学園
文化杉並 17－11 都大森東

▼決勝（順位決定戦）
佼成女子 20－17 都江東商
文化杉並 21－11 藤村女子
都江東商 21－19 藤村女子
文化杉並 18－11 佼成女子

（順位）①文化大杉並②佼成女子③都江東商④藤村女子

関東実業団選手権大会

（9月10、11日／茨城県麻生町）

◎男子

■1部リーグ
中村荷役 28－19 三景
大崎電気 31－24 三景
中村荷役 26－18 大崎電気

■2部
出光千葉 23－13 富士電気
自衛隊久里浜 24－21 日本原研
セントラル自 23－11 出光千葉
常陽銀行 35－8 日進商会
コスモ石油 20－19 日本発条
JUKI 17－14 自衛隊久里浜
セントラル自 29－23 常陽銀行
JUKI 46－13 コスモ石油

▼決勝
セントラル自動車 24－23 JUKI

▼代表決定戦
日本発条 12－0 日進商会
出光千葉 28－23 日本原研

※自衛隊久里浜は代表チーム対象外のため除外

▽代表（6チーム）
セントラル自動車・JUKI・常陽銀行・コスモ石油・日本発条・出光千葉

北信越

北信越学生秋季リーグ戦

（9月9日～11日／北陸電力他）

◎男子

■1部リーグ
新潟大 22－20 金沢大
新潟大 25－15 金沢工業大
新潟大 33－22 富山大
金沢大 21－18 金沢工業大
金沢大 26－16 富山大
金沢工業大 25－13 富山大

■2部リーグ順位
①長野大②信州大③福井大④富山国際大

◎女子リーグ
仁愛短大 20－8 金沢大
仁愛短大 31－11 新潟大
仁愛短大 36－8 富山大
仁愛短大 22－8 信州大
仁愛短大 50－3 長野大
金沢大 20－17 新潟大
富山大 15－14 金沢大
金沢大 14－11 信州大
金沢大 44－1 長野大
新潟大 22－15 富山大
新潟大 13－5 信州大
新潟大 34－6 長野大
富山大 19－7 信州大
富山大 33－7 長野大
信州大 23－6 長野大

（順位）①仁愛女子短大②金沢大③新潟大④富山大⑤信州大⑥長野大

中国

西日本学生選手権大会

（日時・会場不明）

◎男子

▼予選リーグ順位
A ①大阪体育大②沖縄国際大③南山大④広島経済大
B ①大阪経済大②愛知大③同志社大④関西大
C ①桃山学院大②琉球大③広島修道大④愛知学院大
D ①名城大②近畿大③熊本大④山口大
E ①福岡教育大②中部大③立命館大④広島大
F ①中京大②関西外国語大③東和大④愛媛大
G ①京都畜産大②名古屋大③神戸大④松山大
H ①福岡大②天理大③佛教大④大阪教育大

▼準々決勝
大阪体育大 29－16 大阪経済大
桃山学院大 29－23 名城大
中京大 30－14 福岡教育大
福岡大 38－23 京都畜産大

▼準決勝
大阪体育大 30－17 桃山学院大
福岡大 32－22 中京大

▼3位決定戦
中京大 30－16 桃山学院大

▼決勝
大阪体育大 28－18 福岡大

◎女子

▼予選リーグ順位
a ①武庫川女子大②中京女子大③琉球大④広島大
b ①福岡大②関西女子短期大③中京大④岡山県立大
c ①福岡教育大②天理大③関西外国語大④名古屋文理短期大
d ①大阪体育大②大阪教育大③立命館大④愛媛大

▼準決勝
武庫川女大 24－14 福岡大
大阪体育大 24－20 福岡教育大

▼3位決定戦
福岡教育大 22－18 福岡大

▼決勝
武庫川女大 21－19 大阪体育大

＊優秀選手に次の選手が選ばれた。
〈男子〉尾崎修央、松村知彦、四方篤、上野修一（以上、大体大）、加川厚、田中慎一（以上、福岡大）、池野哲也（中京大）〈女子〉田中啓子、琴野由子、中井美世（以上、武庫川女大）山形雪子、辻賀奈子（以上、大阪体大）、甲斐万起子（福岡教大）、高嶺かおる（福岡大）

中国高校選手権大会

（5月13～5」／境港市）

◎男子

▼1回戦

東岡山工・岡 23－4 米子北・鳥
岩陽・山 38－11 飯南・島
総社・岡 24－8 江津・島
境港工業・鳥 29－13 呉港・広
修道・広 27－12 松江南・島
下松工業・山 27－1 堺水産・鳥
呉工業・広 19－9 倉敷工・岡
下関中工・山 21－12 堺・鳥

▼2回戦

岩陽 16－14 東岡山工業
堺港工業 10－7 総社
下松工業 18－14 修道
下関中央工 39－17 呉工業

▼準決勝

岩陽 24－18 境港工業
下関中央工 26－17 下松工業

▼決勝

下関中央工 17－16 岩陽

◎女子

▼1回戦

岩国商業・山 34－9 米子西・鳥
倉敷中央・岡 30－6 賀茂・広
華陵・山 34－9 江津・島
西大寺・岡 33－2 米子北・鳥
境・鳥 20－8 松江南・島
総社・岡 17－9 第一女子・広
浜田商業・島 22－11 米子東・鳥
徳山商業・山 20－12 山陽女子・広

▼2回戦

岩国商業 30－10 倉敷中央
華陵 18－15 西大寺
総社 13－9 境
徳山商業 28－12 浜田商業

▼準決勝

岩国商業 21－18 華陵
徳山商業 19－18 総社

▼決勝

岩国商業 23－18 徳山商業

山口県クラブ選手権

(6月19日／下松市)

◎男子

▼1回戦

下松クラブ 31－17 清流クラブ
岩国クラブ 26－16 豆子郎クラブ
徳山クラブ 23－13 下松アダルト
美川クラブ 21－15 下関クラブ

▼準決勝

下松クラブ 24－13 岩国クラブ
徳山クラブ 23－12 美川クラブ

▼決勝

下松クラブ 26－16 徳山クラブ

◎女子

▼決勝

徳山クラブ 32－14 熊毛クラブ

四国

高校総体愛媛県予選

(6月3～6日／松山市)

◎男子

▼1回戦

松山南 22－16 吉田
松山城南 16－10 新居浜西
松山西 22－3 伊予農

▼2回戦

松山中央 21－14 伊予
松山東 29－15 今治東
今治西 38－2 今治工
松山商 24－15 宇和島南
新田 37－2 新居浜商
新居浜工 15－9 松山南
松山工 32－9 松山城南
松山北 24－6 松山西

▼準々決勝

新居浜工 21－9 松山中央
松山工 22－21 松山東
今治西 22－13 松山商
松山北 31－18 新田

▼準決勝

新居浜工 19－10 松山工
松山北 22－17 今治西

▼3位決定戦

今治西 22－19 松山工

▼決勝

松山北 19－16 新居浜工

◎女子

▼1回戦

弓削 16－13 今治西
伊予 17－5 松山中央
松山北 12－3 東温
新居浜商 15－7 新居浜東
今治東 19－15 小松
松山商 20－4 松山中島
今治南 15－5 松山西

▼準々決勝

今治北 21－1 弓削
松山北 21－12 伊予
今治東 15－8 新居浜商
今治南 22－8 松山商

▼準決勝

今治北 17－7 松山北
今治南 14－13 今治東

▼3位決定戦

今治東 15－14 松山北

▼決勝

今治北 12－9 今治南

四国高校選手権

(6月17～19日／愛媛県総合体育館)

◎男子

▼1回戦

新居浜工 35－13 城南
三好農林 22－21 今治西
高松商 18－14 土佐
高松 25－15 高知南

▼準々決勝

香川中央 29－7 新居浜工
高知東 24－14 三好農林
高松商 25－22 池田
高松 23－20 松山北

▼準決勝

香川中央 29－13 高知東
高松 22－10 高松商

▼3位決定戦

高松商 25－19 高知東

▼決勝

香川中央 30－11 高松

◎女子

▼1回戦

池田 22－9 高知東
岡豊 12－5 富岡東
今治東 15－13 高松東
香川中央 13－11 今治南

▼準々決勝

高松商 17－8 池田
今治北 37－2 岡豊
今治東 32－6 土佐
香川中央 15－8 城北

▼準決勝

今治北 16－7 高松商

今治東 19—15 香川中央
▼3位決定戦
香川中央 12—11 高松商
▼決勝
今治北 17—11 今治東

九州

九州学生リーグ秋季大会

（8月20日～24日／福岡大学他）

◎男子

■1部

福岡大 28—27 東和大
福岡大 26—20 福岡教育大
福岡大 38—25 琉球大
福岡大 33—29 沖縄国際大
福岡大 35—24 熊本大
東和大 30—18 福岡教育大
東和大 28—20 琉球大
東和大 30—24 沖縄国際大
東和大 33—16 熊本大
福岡教育大 31—22 琉球大
福岡教育大 27—24 沖縄国際大
福岡教育大 30—19 熊本大
琉球大 21—20 沖縄国際大
熊本大 25—20 琉球大
沖縄国際大 31—16 熊本大
（順位）①福岡大②東和大③福岡教育大④琉球大⑤沖縄国際大⑥熊本大

■2部順位

①九州大4勝0敗②西南大4勝1敗③九産大3勝2敗④熊学大2勝3敗⑤熊工大1勝4敗⑥鹿大1勝4敗

■3部順位

①鹿経大4勝0敗②久工大3勝1敗③大分大2勝2敗④長総大1勝3敗⑤産医大0勝4敗

◎女子

福岡教育大 29—21 福岡大
福岡教育大 36—14 琉球大
福岡教育大 42—18 九女大
福岡教育大 41—8 沖国大
福岡教育大 47—5 熊学大
福岡大 28—26 琉球大
福岡大 39—14 九女大
福岡大 39—4 沖国大
福岡大 38—6 熊学大
琉球大 26—12 九女大
琉球大 32—9 沖国大
琉球大 35—15 熊学大
九女大 19—16 沖国大
九女大 27—16 熊学大
沖国大 22—9 熊学大
（順位）①福岡教育大5勝0敗②福岡大4勝1敗③琉球大3勝2敗④九女大2勝3敗⑤沖国大1勝4敗⑥熊学大0勝5敗

フリースロー

「トレーナーバンク」

企画・広報委員 早川 文司

広島のアジア大会も終わり、秋真っ盛り。スポーツを楽しむにはもってこいのシーズンである。日本リーグも開幕、今回はどんなドラマが生まれるか、心ウキウキだ。ただ、各チームの指導者は開幕が迫ると、選手の体調が気になる時期である。

故障者続出なんて事態にでもなれば、一大事。描いていた戦術、戦略は、ものの見事に吹っ飛んでしまう。主力であればなおさら。泣くに泣けない心境だろう。コンディション維持にはことのほかご注意を。

ところで、広島県体育協会が進めているユニークなプランを紹介しよう。一口でいえばトレーナーの人材バンク。トレーナー協会設立の動きだ。広島県内のジムやフィットネスクラブなどで、リハビリるトレーナー、マッサージなどに携わっている理学療法士や栄養士らに参加を呼びかけようというもの。

そもそもは、加盟競技団体の競技力向上に役立てようとの発想で、トレーナーらにそれぞれ専門の知識をご披露願おうというわけだ。内容は、トレーニング全般のメニュー作成から応急処置、コンディショニングづくりの指導など多岐にわたる。どれだけの人材が集まり、どれほどの効果が上がるか、注目に値するプランである。

このトレーナーバンク・プランを聞いたとき、長年、故障に悩み続けた某選手を思い出した。一時は歩行も困難な時があったが、信頼するトレーナーの指導で懸命に機能回復に取り組み、全快した。その時、彼の言葉が今でも耳に残っている。「僕には神の手だ」。頼れるトレーナー、ドクターはまさしく「神の手」である。

ハンドボール界でも、専任トレーナー制度を設けたらいかがだろう。備えあれば憂いなし——プレイヤーあってのチームである。強化のためには、まずそれぞれのチームが土台、つまりしっかりとした環境整備をすることが何よりも大切なのではなかろうか。選手はチームの宝である。（了）



（財）日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二四七号　昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可　平成六年十月二十六日 印刷　平成六年十一月一日 発行
東京都渋谷区神南[illegible]一—一
電話 代表 三四八一—二三六一
振替 〇〇一二〇—七—一〇二九三
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五拾円（年間購読料三千三百円）